

八多小学校だより

令和元年度
6月号
神戸市立八多小学校



みんなニコニコ にこハピグループ

今年度も1年生から6年生までの児童による縦割りグループ(にこハピグループ)での活動が始まりました。異なる学年の児童が一つのグループとして集まり、様々な活動を行います。集まってくる児童一人一人がにこにこ活動に取り組み、ハッピーな気持ちになる、とういうことで、縦割りグループを「にこハピグループ」、そのグループで行う活動時間を「にこハピタイム」と呼んでいます。

さっそく、5月7日(火)には1年生をむかえる会として、にこハピ活動が行われました。事前にどんな遊びなら全員が楽しめるかを6年生が考え、企画します。本年度は心ほぐしとして、全校生でエビカニクスを最初に踊りました。ちょっと戸惑ったような表情の1年生を、前に立った6年生のダンスがひっぱります。最後にはその場にいる全員が笑顔になって、グループごとの交流へ。担当教員が見守る中、どのグループも力いっぱい楽しめたようです。廊下ですれ違うたび、「汗かいた〜!」「楽しかった〜!」とたくさんの子供たちが教えてくれました。

今年は1年生が7名なので、各グループには、一人ずつ。たくさんのお兄さん、お姉さんに囲まれ、至れり尽くせりの時間が過ごせたのではないのでしょうか。人数が減った分、お互いに一人一人を大切にしながら、力を合わせる姿がたくさん見られるように感じます。各学年のめあてを大切に、今年度もみんながにこにこ、ハッピーになれる活動を進めていきます。
縦割り活動担当 井城 真由佳

～教科書展示会のお知らせ～

下記の期間中、神戸市立小学校で採択している教科書と共に、今年度採択する小学校全教科の教科書見本を展示します。意見書箱も設置しますので、ご意見等ありましたらお寄せください。

期間：6月18日(火)～7月4日(木)

神戸市総合教育センター・中央図書館

6月18日(火)～7月3日(水)

東灘図書館・灘図書館・北図書館

新長田図書館・西図書館・北神図書館

展示期間は14日間です。休館日は各図書館でお確かめください。

問い合わせ先：学校教育部 教科指導係 電話 360-2010

「当たり前」から「ありがとう」へ



5月16日から5年生が大沢小学校の5年生と一緒に4泊5日でハチ高原へ自然学校に行ってきました。今年自然学校は、後半に曇りや小雨の降る日もあり一部プログラムを入れ替

えはしましたが、ほぼ予定していた活動は実施することができました。

さて、親元を離れての5日間は、さぞかし不安だった子もいたかと思えます。もちろん、テレビやゲームもありません。宿舎の「角野山荘」はきれいで、設備の整った宿泊施設ではあるものの、観光旅行とは根本的に異なります。食事の配膳・後片付け、就寝・起床時間、入浴のルール、布団敷き、…、何から何まで家での生活とは異なります。集団生活上、守らなければならないルールは山ほどあります。私の子供の頃は、銭湯が当たり前でしたので、お風呂でのマナーは自然に身に付いていましたが、今の子供たちは、その経験もほとんどありません。

つまり、施設は十分整ってはいるが、自分たちで考え、行動していかなければならない5日間でした。そんな中、5年生の子供たちは、日一日と集団生活を身につ



けていき、次第に友達と助け合い、思いやる「豊かな心」が育っていききました。一緒に行った大沢小学校のみなさんとも日に日に心の距離を縮めていきました。

5日間のプログラムの中で、最も印象的だったのが、2日目の鉢伏山登山です。(子供たちとは思いが食い違ふとは思いますが…)さて、いざ登山が始まると思っていた以上にきつく、不平を言い出す子が出始めました。「もう無理!」「あと、どのくらい?」…。それでも、眼下に広がる雄大な景色。遠くには、氷ノ山も見えます。誰かが「ヤッホーッ!」



と言いだめると、つられてあちらこちらで、「ヤッホーッ!」の連発。うまく反響すれば、やまびこも聞こえてきます。しかし、それもつかの間。そのうちに疲れが出始め、頂上付近は特に勾配

がきつくなり、だんだん無口。「あと少し、あと少し。」私は、自分に言い聞かせる意味でも、声をかけ続けました。子供たちも自ずと「もうちょっとや、がんばれ!」「がんばろう!」と声を掛け合っています。そして、ついに頂上に登りつめたときの喜び、安堵感、達成感、すばらしい景色、風の心地よさ、そして、お弁当の美味しさ。それは実際に登った者にしか味わえないものです。

無事自然学校を終えて帰校した子供たちは思った以上に元気そうで、日焼けした顔も手伝ってずいぶん逞しくなったように感じました。終わりの式で私は「この自然学校で気付いたこと



は一人一人違うと思うが、ひとつひとつの思い出を自分の中でプラスに意味付けてほしい。」と伝えました。登山はしんどかったけど…、でもそれを乗り越えたからこそ…というように。

そして、日々の暮らしの中で「当たり前」だと思って意識もしなかったこと(三度の食事・洗濯された衣服・掃除の行き届いた住まい…)が実は「当たり前ではない」こと。またこの自然学校をたくさんの人(家族のみなさん・いつてらっしやい、お帰りのプラカードを作ってくれた在校生・先生方・バスの運転手さん・宿のスタッフのみなさん・カヌーを教えてくれたスタッフのみなさん・登山のガイドをしてくださった池田さん・写真の大谷さん・救護員の呉島さん…)が支えてくれていたこと。この自然学校が「当たり前」から「ありがとう」へ意識が変わるきっかけになればと願うばかりです。

校長 小原 耕司